

熱中症要望のための早期対応のお願い

- 初夏は気温の変動が大きく、暑さへの**身体の順応が不十分な時期**です。作業員からの**身体の不調の訴えを確認することなく**、水分と塩分をこまめに補給させる、作業時間の短縮や十分な休憩を取らせるなど、職場では**早めの対応**が必要です。
- 変調を訴える人が出たら、水分補給や休憩を取らせるほか、**症状が悪化することがあるので一人にしないことが大切です。**
- 意識がはっきりしない、体に触ると熱いなどの**症状があれば**、直ちに氷で体を冷やし、**躊躇せずに救急車を呼びましょう。**
- 日中に熱中症の**症状がみられた場合は**、一旦回復し帰宅した後に、再度悪化することがあります。通常**の体調に戻らない場合は**、**早めに医師の診断を受けましょう。**
- 職場に**WBGT値（暑さ指数）の測定器（湿球黒球温度計）**を設置するほか、環境省の熱中症予防情報サイトに掲載されている**WBGT予測値・実況推定値**を作業前に参照するなど、**WBGT値を活用した作業管理を徹底**しましょう。